

事業名	部名	部長名	担当課	担当班名	電話番号	事業目的・必要性	事業費 (円)	事業実施状況	事業実施主体	事業 対象者	事業決定月日 (部局長会議等) 及び評価確定日	事業効果 (成果・満足度)	自己評価
ものづくり産業支援事業	総務企画部	石川 亨	地域企画課	地域振興班	0182-32-0594	平鹿管内には自動車関連企業等が多く集積しており、岩手・宮城県の生産拠点から近く地理的優位性も有していることから、自動車部品の受注など、ビジネスチャンスが期待される。 横手第二工業団地に進出している大橋鉄工秋田(株)やオロテックス秋田(株)など、トヨタ自動車の1次サプライヤーを中心に、地元(県内)企業と協力関係を構築していくことが求められているほか、労働人口の減少やコロナ禍における時代の変化に伴い、新しい働き方や人材確保・育成等に対する支援を強化し、地元企業の生産性向上を図っていく必要がある。	400,000	(1)秋田県南工業振興会の活動への補助。働き方改革、業務効率化、生産性向上による企業組織力のベースアップを図ることを目的に次の研修を実施 ・ISO規格解説・活用セミナー(7月開催、参加企業7社) ・ISO9001内部監査員養成セミナー(11月開催、参加企業11社) ・ISO14001内部監査員養成セミナー(12月開催、参加企業10社) ・ものづくり企業ステップアップ研修(11月開催、参加企業7社) (2)岩手・秋田県際連携事業に伴う企業訪問(10月、訪問企業4社)	横手市	管内企業、秋田県南工業振興会	令和3年4月1日	・秋田県南工業振興会主催の生産現場向けのセミナー、研修会などを計画的かつ継続的に実施することで、企業組織力の底上げや人材育成等に寄与しており、ひいては、県南地区のものづくり企業の生産技術力向上につながっている。	・引き続き県地域産業振興課輸送機産業振興室、あきた企業活性化センターなどと協力し、平鹿管内の自動車関連企業とのつながりを密とし、情報の収集や提供を継続して進めていく必要がある。 ・引き続き横手市と連携し、管内企業に対して自動車関連企業向けの各種セミナー、勉強会等への積極的な参加を促すとともに、企業の更なる生産性向上、体質強化等の支援にも努めていく必要がある。

事業名	部名	部長名	担当課	担当班名	電話番号	事業目的・必要性	事業費 (円)	事業実施状況	事業実施主体	事業 対象者	事業決定月日 (部局長会議等) 及び評価確定日	事業効果 (成果・満足度)	自己評価
菌床しいたけ栽培のIoTの導入による経営発展事業	農林部	進藤 隆	森づくり推進課	林業振興班	0182-32-9505	<p>当地域の菌床しいたけ栽培は、周年栽培が増加しており、国内有数の産地となっている。安定出荷、高品質により市場の高い評価を得ているが、栽培施設の管理(温度・湿度等)については、栽培経験が長い人ほど経験と勘に頼っている場合が多く、データ蓄積(可視化)している生産者は少ない。そうしたことから、精度の高い温度・湿度管理等により、省力化を図ることで、経済損失を防ぎ経営の安定化につなげるとともに、経験の浅い後継者や新規参入者に対する技術指導のため、栽培データを蓄積・分析する必要がある。</p>	1,118,700	<p>(1)菌床しいたけ生産のIoT活用による実証事業業務委託 内容: 菌床しいたけ生産者と営農指導を担うJA及び生産者部会、県林業研究研修センターとの連携によるしいたけ栽培におけるIoT技術活用の実証事業 ・IoT機器設置: 2箇所 ・データ取得期間: 6月～2月 ・測定データ因子: 栽培施設の温度・湿度・照度、菌床内温度 ・測定データ蓄積・分析: 成果報告のとおり、測定データの分析と実証結果を検討。</p> <p>(2)菌床しいたけ生産のIoT活用実証事業報告会 内容: R元、R2年度の事業協力農家、JA、県林業研究研修センターの担当者が集まり、R2年度調査結果等に関する報告会をR3年7月に実施した。R2年度に把握した4ヶ月間のデータから知り得た内容とIoT管理の有効性について、意見交換を行った。</p>	県	菌床しいたけ生産者	令和3年4月1日	(JAあきたふるさと) ・IoTの活用の結果、生産者が目に見える数値で確認できるようになり、温湿度等が設定の基準値以内であることが確認され栽培管理に有効なことが実証された。	・令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響があり、機器設置等に時間を要し計測期間が短かったが、今後は培養開始から収穫終了までの一連のデータを計測して、収穫量との関連を分析することで、収穫量の安定化が期待される。
											令和4年5月16日	(菌床しいたけ生産者) ・IoTセンシングにより温度管理者のヒューマンエラーやハウス内の異常等に気づくことができ、有効であった。	・計測対象の同一施設内であっても、場所により温湿度の差が大きいため、可能な限りセンサー等を増やして調査精度の向上を図ることが必要と考えられる。

事業名	部名	部長名	担当課	担当班名	電話番号	事業目的・必要性	事業費 (円)	事業実施状況	事業実施主体	事業 対象者	事業決定月日 (部局長会議等) 及び評価確定日	事業効果 (成果・満足度)	自己評価
効率的な経営を目指す担 い手の確保・育成事業	農林部	進藤 隆	農業振興 普及課 (横手市農 業振興課)	企画・振興 班(農業政 策係)	0182-32- 2112	米価の下落や各種交付金 の廃止等、農業を取り巻く 情勢がますます厳しさを 増す中、今後の経営安定 化に向け、経営管理能力 向上のための対策が必要 である。 農業次世代人材投資資金 事業を活用する新規就農 者が増加してきているが、 経営基盤の脆弱性がみら れることから、経営管理能 力別に農業簿記講座、新 規就農者向けに販路拡大 のための研修会を実施 し、経営安定化を支援す る。	222,000	(1)担い手経営サポート事 業 ・【基礎講習】農業簿記の 基礎及び簿記の活用方法 についての講習を実施 (12月、4回、参加者数10 人) ・【初級講習】パソコン農業 簿記の基礎知識の習得 (12月、1回、参加者数18 人) ・【実践講習】農業簿記ソ フトを活用した経営分析方 法等の講習を実施 (2月、参加者数8人)	横手市	農業次 世代人 材投資 資金受 給者等 の若手 農業者、 認定者、農 業法人・ 集落営 農組織 の代表 者・会計 担当者 等	令和3年4月1日	(参加農業者) ・農業簿記講習の受講者 アンケートでは、「とても良 い」「良い」が8割を超え満 足度は高かった。理解度 についても「ほとんど理 解」「8割くらい理解」が7 割を超えた。 ・管内農業者からの参加 要望が多いため、別途市 独自予算により、パソコン 農業簿記講習を開催し た。	<ul style="list-style-type: none"> ・担い手経営サポート事 業は、参加人数が延べ36 名であり、若手農業者か らの簿記研修のニー ズは変わらず高い。 ・パソコン農業簿記講習 は、開催日時を2日間に 分散させたことで、パソ コンのエラー対応や、1人 に対する個別相談の時間 の確保ができた。 ・開催時期は、簿記記帳 時期と合っているため好 評であった。
								令和4年5月16日			(参加新規農業者) ・新規就農者レベルアップ 事業については、コロナ禍 の状況であったことからオ ンラインでの開催とした。 ・鳥獣被害は、近年増加し ており、販売額に直結す ることから、農業者の関心 の高い内容であった。	<ul style="list-style-type: none"> ・新規就農者レベルアップ 事業については、要望が 多い農作物の鳥獣被害対 策の講習会であり適切で あった。 ・急遽オンラインでの開催 となったため、実際に電気 柵の実物を触って説明を 受けることのできる対象者 が限られた。理解度等を 考慮すると対面での研修 会を実施する費用があ る。 	

事業名	部名	部長名	担当課	担当班名	電話番号	事業目的・必要性	事業費 (円)	事業実施状況	事業実施主体	事業 対象者	事業決定月日 (部局長会議等) 及び評価確定日	事業効果 (成果・満足度)	自己評価	
横手のうまいもの販路拡大推進事業	総務企画部	大門 洋	地域企画課	地域振興班	0182-32-0594	横手市には多くの農産品や加工品があるものの、県外での認知度が低く、物産資源の魅力発信が十分ではない。さらに、新型コロナウイルスの影響により対面による物産展等の販売機会が失われていることから、ウィズコロナに対応した対面によらない手法として、また、アフターコロナを見据えたリスクに対応できる手法の一つとして、ICTを活用した横手産品の情報発信、販路拡大を推進する。	1,653,000	(1)ビジネスマッチ東北2022春への出展 ・仙台市で開催された商談会へ出展(3月、3事業者) (2)「いぶりがっこ祭りオンラインライブ」開催 ・民謡の生配信イベントと共に、「いぶりがっこ」をはじめとした特別セット商品による横手のPRや、視聴者も参加できるプレゼント抽選会を実施。(1月、1回) (3)オンライン物産展の開催 ・(2)の特別セット商品の中に、自社ECサイトを持たない4事業者の商品を組み入れ販売(12月1日～1月10日と1月30日～2月6日の2回販売) (4)GIいぶりがっこへの支援 ・GI産品フェアへの出品(11月、仙台市、4事業者) ・くみあいピックinなかいちへの参加(2月、秋田市、6事業者) ・横手産品販促事業への参加(2月、3事業者) ・「食品衛生法改正について」の研修会の開催(6月21日、横手市、参加者26名)	横手市 (横手の魅力営業課)	農業生産者、加工事業者、小売事業者、食品バイヤー、一般消費者	令和3年4月1日	・仙台圏商談会にて感染症対策を徹底し、現地でリアル出展し、商談件数12件(うち成立3件、継続5件)となり、ウェブ出展となった昨年度よりも多くの商談を実施した。 ・「いぶりがっこ祭りオンラインライブ」は、『いぶりがっこ＝横手』の認知度向上を図り、また、秋田民謡で横手の空気感を演出する内容で、186人が視聴した。開催後、視聴者から「よこてfun通信」へ5件の購読申込みや、「横手へ行きたい」との声をもらうなど、新たな横手ファンの掘り起こしにつながった。 ・オンライン物産展では、ECサイトを持たない事業者及びいぶりがっこ生産者に販売機会の提供ができた。(販売数97セット、販売額645千円) また、販売委託事業者から、自社ECサイトを持たない事業者との新たな取引のきっかけになったとの意見があった。	・事前の商談申込みを促すことで、商談件数が増えたため、今後も積極的な商談申込みへ誘導する必要がある。 ・新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、開催1週間前に会場変更を余儀なくされ、長時間の通信環境チェックができず、直前に通信トラブルの恐れがあったことが分かったが、配信内でアナウンスし、大きな混乱なく終えることができた。 ・生配信と連携させたものの、特別セット商品販売数よりも視聴者数が多く、必ずしも購買に結び付かないことが分かった。販売額を伸ばすには、より魅力的なセット商品とする必要がある。	・GIについての認知度が低く、購買に繋がっていないため、消費者に対しPR活動を行っていく必要がある。 また、食品衛生法改正に伴い、いぶりがっこ製造者の減少が懸念されるため、研修会の開催や情報提供等の支援を行っていく必要がある。
											令和4年5月16日	・GIいぶりがっこへの支援では、コロナ禍でお土産需要や物産展出展機会が減少している中、販売員が現地に赴かず販売できるイベントに出展し、販売機会を創出できた。販売額等は次のとおり GI産品フェア(販売数329点、販売額169,680円)、くみあいピックinなかいち(販売数727点、販売額337,940円)、横手産品販促事業(販売数150点)。		

事業名	部名	部長名	担当課	担当班名	電話番号	事業目的・必要性	事業費 (円)	事業実施状況	事業実施主体	事業 対象者	事業決定月日 (部局長会議等) 及び評価確定日	事業効果 (成果・満足度)	自己評価
機能合体による広域観光 推進事業	総務企画 部	石川 亨	地域企画 課 (観光おも てなし課)	地域振興 班	0182-32- 0595	県と市の機能合体を活用 した広域観光振興の推進 を図る。	1,228,000	(1)観光業に係る講習会を 実施(11月 参加者26人) (2)大阪で観光物産イベン ト「秋田県横手市まるっと 観光物産展」を開催(10 月) (3)観光ノベルティとして エコバック(1,000枚)を作 成。 観光物産展でのPRチラ シ、ポスターの作成、各種 観光リーフレットの作成。	横手市	県内外 観光客 他	令和3年4月1日	(1)観光業に係る講習会では、参加者から「コロナウイルスの影響によって旅行の目的やスケジュールなどが変わっていて現状がどうなっているのか知れて良かった」という意見があった。 (2)大阪での観光物産イベントでは、開始直後の約1時間程度は来客者の列が途切れず、かなりの反響と相当数の来場があり、横手市の観光物産PRにおける効果的な機会となった。	・新型コロナウイルス感染状況を注視し、状況に応じたイベント開催方法や、関西圏を主なターゲットとした広域連携による観光PRの機会を模索する必要がある。 ・横手市への観光客は宿泊をしない通過型の観光客が多いことがかねてからの課題である。横手市増田まんが美術館を通年観光の中心施設に位置づけ、県内外からの横手市への観光誘客と滞在時間延長を目指した施策に取り組む必要がある。
											令和4年5月16日	(3)大阪での観光物産イベントをはじめ市内外での観光PRの機会でも積極的に活用することができた。	

事業名	部名	部長名	担当課	担当班名	電話番号	事業目的・必要性	事業費 (円)	事業実施状況	事業実施主体	事業 対象者	事業決定月日 (部局長会議等) 及び評価確定日	事業効果 (成果・満足度)	自己評価
「山と川のある町」アダプト プログラム事業	建設部	古山 司	用地課	用地・管理 班	0182-32- 6208	社会貢献に意欲・関心を持つ団体と行政が協働して、建設部が管理する道路・河川の美化・維持管理活動を行い、良好な道路・河川環境を作ることにより、地域の共有財産である道路・河川への愛着を深め、利用者のマナー向上を図る。	115,283	花壇維持、清掃活動、草刈り等の実施 (4月～10月、18回、活動団体6団体、参加人数320人)	県	当事業の趣旨に賛同する団体	令和3年4月1日	(参加団体) ・「清掃している姿を見せることにより、ゴミのポイ捨てなどを行わせない意識付けが出来ている」という意見があった。また、清掃や環境美化活動に必要な資材の提供について感謝の声があった。	・清掃及び美化活動を行うことにより、参加者のみならず、道路河川の利用者の美化意識の向上につながった。 ・コロナ禍で活動を縮小している団体もあるが、今後も活動を継続していただくと共に、新規参加団体の獲得についても努力していく。
											令和4年5月16日		
住民の命を守る防災意識 醸成事業	建設部	古山 司	保全・環境 課	河川保全 班	0182-32- 6210	近年、全国各地で台風、豪雨、地震等による災害が発生し、甚大な被害を及ぼしている中、住民の安全安心を確保するためには、防災意識の向上が不可欠であることから継続的な啓発活動が必要である。	87,970	(1)大松川ダム見学に来た小中学校等に対し、土砂災害の危険性について説明しながら、防災意識の向上のため防災啓発グッズ等を配布した。 (6月～3月 参加者225人) (2)横手市主催の防災講話時に地域住民へ防災意識の向上のため防災啓発グッズ等を配布した。 (9月 参加者40人)	県、横手市	市民、小中学生等	令和3年4月1日	(大松川ダム見学の参加者の声) ・『今日、帰ったら家族に土砂災害の危険性の話があったことを伝えたい。』	更なる防災意識の向上を目指し、自主避難の大切さを理解いただけるよう継続的に実施していく必要がある。
								令和4年5月16日			(防災講話の参加者の声) ・『最近の豪雨の影響を改めて身近に感じた。早めに避難したい。』 「土砂災害」について、理解を深め、防災意識の大切さを伝えることができました。		